

2016年5月4～7日四日市東日本大震災支援の会 第32回派遣 熊本県西原村 ボランティア活動の報告

四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

九州で大規模な災害が発生し、尊い命が犠牲になり、多くの方が家を失い、避難所で不自由な生活を強いられています。支援の会では、GWを利用して災害ボランティア活動実施を決意しました。まず、四日市市危機管理室と四日市市社会福祉協議会の3名による先遣隊、熊本市出身の四日市大学卒業生、水俣市在住の知り合い2名などからの情報をもとに熊本県西原村での活動を事前調整し、準備を始めました。しかし、現地の状況は日々大きく変化し、当初予定していたコーディネート機能も変動があり、出発2日前に西原村災害ボランティアセンターと再調整を行いました。そして、避難所での足浴&見守り活動を想定した18名でメンバーを構成し、完全自己完結を前提として装備品を全て持ち込むことにしました。

移動は、レンタカーのマイクロバスを利用し、大型車両の運転に慣れた四日市市消防職員協議会3名の助けを借り移動しました(高速道路は災害派遣等従事車両の申請が認められ、無料走行しました)。GW中ではありましたが、渋滞もなく順調に現地に到着しました。

災害ボラセン本部で最終的な活動場所の調整をいただき、5月5日に2つの学校体育館に分かれて支援活動をしました。この日は好天のために昼間は家の片づけなどで避難所から外出する方が多かったのですが、残っていたお年寄り中心に足浴と見守りをしました。また、四日市市が西原村に送った支援物資のマットレスの搬送も行いました。活動終了後は、被害が少なかった菊池市の旅館の大広間をお借りし、素泊まりしました。

2日目の5月6日は朝から大雨が降り、片づけなどの屋外での災害ボランティア活動は中止になりました。しかし、災害ボラセンから直接連絡が入り、避難所ケアと11日に再開を予定している小学校の清掃の依頼を受けました。そこで、18名のメンバーを2か所の避難所に5名ずつ配置、残りの8名で小学校の清掃作業にかかりました。作業終了後は、マイクロバスで西原村を出発し、福岡で入浴して帰路につきました。

今回の活動では、多くの方から支援をいただきました。学生は、アルバイトを休んで参加費を負担して、被災地の支援活動に従事します。アルバイト収入が無くなり、かつ参加費を支払うという二重の負担が学生にはのしかかります。その意味で、支援金を学生の参加費抑制にあてることができ、本当に助かりました。

また、余震が続く発災後1か月以内であり、多くの不確定要素がある中での活動でした。そのため、防災士資格を持つ学生消防団メンバーを中心に、ベテランの支援の会スタッフでメンバーを構成しました。強い使命感と高い技能、被災地に寄り添うコミュニケーション能力を持って活動にあたることができ、現地での活動はとてもスムーズに展開できたと考えます。

<活動概要>

■避難所でのボランティア（足浴による生活不活発病の予防）

■小学校再開のための清掃作業

参加費

学生 2,000 円 一般 14,000 円 *卒業生などの支援金を学生の参加費抑制に使わせていただきました。

<費用の内訳>・宿泊費(素泊まり)、移動費、入浴代(1回)、ボランティア活動保険

★宿泊；菊池温泉「望月旅館」大広間で雑魚寝

<参加者>合計 18 名

- ・四日市大学学生 5 名(東北支援経験スタッフ)・教員 1 名(代表)・職員 2 名(災害ボラ経験者)
- ・四日市看護医療大学学生 3 名(看護師・保健師志望)と看護教員 2 名
- ・三重大学学生 1 名(東北支援経験者)、
- ・四日市市消防職員協議会 3 名(マイクロバス運転など担当)
- ・四日市市保健師 1 名(見守り活動)

<スケジュール概要>*活動場所は西原村の指定避難所です

★5月4日（水祝日）

18：00 四日市大学出発（レンタカーのマイクロバスで移動）

★5月5日（木祝日）

9：00～16：00；2か所の避難所で足浴&見守りボランティア⇒望月旅館 入浴&宿泊

★5月6日（金）

9：00～15：00；2か所の避難所で足浴&見守り、1つの小学校で授業再開のための清掃作業

⇒ 福岡で入浴&食事 ⇒翌朝 8：00 頃大学帰着

<支援金>多くの方からたくさんの支援をいただきました。ありがとうございました。

- ・たくさんの卒業生
- ・四日市大学教職員の皆さん
- ・一般市民の方

より、合計で 158,000 円の活動資金を寄付いただきました。